

大腸癌の発生部位別に検討した肺転移切除後の予後に関する研究のお知らせ

帝京大学医学部附属病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間：2025年1月16日 ～ 2026年3月31日

〔研究課題〕

大腸癌を原発部位別に分類した場合の肺転移切除後の予後比較検討

-レジストリデータを使用したコホート研究-

〔研究目的〕

大腸癌を発生する腸の部位別に分類して、肺転移の手術を受けた患者さんの予後と予後因子を検討します。

〔研究意義〕

大腸癌は腫瘍の発生部位の違いによって予後が異なるデータが報告されていますし、発生する場所によって肝臓に転移しやすい部位と肺に転移しやすい部位があります。大腸癌肺転移は手術治療が推奨されることが多いのですが、肺転移切除後の予後に関して発生部位の違いによるデータはまとまった報告がないのが現状です。手術は体に侵襲を加える治療なので、より正確な治療計画を立てる上で、これらは重要な情報の一つと考えます。

〔対象・研究方法〕

本学がデータ収集機関であるレジストリー「転移性肺腫瘍に対する肺切除症例データベース作成のための多施設共同コホート研究」（帝倫 19-013-5）に登録されている転移性肺腫瘍の患者さんのうち、1996年1月1日～2024年9月30日の間に大腸癌による転移性肺腫瘍で肺切除術を施行された患者さんについて、腫瘍の状態や手術状況に関するデータについて分析を行います。

〔研究機関名〕

帝京大学医学部附属病院

〔個人情報の取り扱い〕

本研究で得られたすべてのデータは他の情報との照合なしに個人を同定できない形に加工したうえで解析されます。本学では、研究終了後にデータセットのコピー等を倫理委員会事務局に提出し、10年保管後に廃棄します。対象患者さんがデータ使用拒否を申し出た場合、情報は速やかに削除します

対象となる患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究責任者：氏名 西田智喜 職名 助手
研究分担者：氏名 坂尾幸則 職名 教授
研究分担者：氏名 齋藤雄一 職名 准教授
研究分担者：氏名 山内良兼 職名 講師
所属： 帝京大学医学部外科学講座
住所： 東京都板橋区加賀 2-11-1 TEL:03-3964-1211(代表) [内線 33702]